

- (委員) どこの地区もそうだが、数十年前は若い世代が多くいたが、今は全国的に人口減少・少子高齢化が進み、地区内も高齢者世帯が増加し、同時期に同世代でこの地区に入居したから同時に高齢者世帯が増加している現象。5年前と比べると隣近所の支え合いや助け合いが希薄化している。このまま進んでいくと、居住していけない方が多くなって施設入所したり、核家族で子どもが違う所に住んでいると、地域から転出という形になり、地域がより寂れてくる。地区社協で、福祉・地域づくりなどを目的として活動しているが、福祉に力を入れなければこの地区は寂れ、住みづらい街になるので、まち協の方々には福祉に力を入れていただきたい。高齢化の町内会と、まだ若い世代の町内会で温度差がある。今までは多世代事業などの形でリンクしていたが、あまりにも高齢化が進み、中々繋がりもなくなってきている。
- (委員) うちの市民委員会も高齢化は進んでいるが、まだそれほど逼迫している状況ではない印象。常日頃、色々な集まりでも話しているが、独居老人が増えているのは事実。せめて、自分の近くにそういう方がいたら、何でもいいから声かけしたり、話をするということは常々している。中には、何も助けてもらわなくてもいい、かえってそういう話をされたら困るという方もいるが、そういうことを言われても声をかけるようにしている。そうすると、段々コミュニケーションが取れるようになってくる。全ての町内会がそういう形を取れているとは思わないが、今のところまだ差し迫った問題という話はきていない。だが、5年先を考えると、当然非常にウエイトの大きい問題になってくるのではないか。
- (委員) 私自身まだ10年ほどしか住んでいないが、自分の地区は昭和の後半から宅地化されていって、まだ若い方もいるし、退職されてから住宅を構えてという方と、ちょうどバランス的にはいい感じで今はいっている。ただ、どこも同じように年数が経てば高齢化はどんどん進んでいくであろうと感じている。合わせて、町内会も若い方もいるが、そこにうまく役員がバトンタッチされていっていないという現状と、徐々に高齢化し、横のコミュニケーション的なものが少し途絶えてしまうようなところもあると感じている。
- (委員) 私も同地区だが、複数の町内会があり、皆同じだと思うが、高齢者もいれば若い方もいる。自分は結構古い方の町内会にいるが、町内会の会員が毎年どんどん減っている。会員が減るということは当然会費も入ってこなくなる。地域としては広いが、街灯一つつけるにも町内会で半分負担していて、結局各個人の負担が増え、負担が増えるなら町内会に入らないという若い世代の未加入数も増えている。まちづくりで話す内容ではないかもしれないが、どこの町内会も同じだと思うが、そういう防犯も含め、地域の街灯の補助率みたいなものも今後検討していただきたい。もう一つ、今回町内会で消火栓の増設要望を出したが、消防署から却下された。市内で消火栓が必要な箇所が百何十か所あるらしいが、全然進んでいないという話。このまち協でする話ではないが、長期的にそういうことも含め、地域の課題と今できることを整理しないと、何のまちづくりかと感じている。福祉はどんどん進めていかなければいけないので、我々の役目はそういう役目だろうと思う。町内の一人暮らしの高齢者の方は、ある程度の年代になったら、自分の持ち家を売って施設に入っていく。世の中そういう風になってきているので、トータル的にこの緑が丘のことを考えていかないと、市の補助にしても何にしても考えていていただきたい。現場で町内会長や民生委員をしている立場としては、例えば町内会に入りづらいような政策、お金などの部分でも、そういう色々な部分を考えていただきたいと感じている。すぐできるとは全然思っていないし、予算もあるので、大きな課題と小さな課題と両方うまく絡めながら考えていていただきたい。
- (委員) 今まで出たような話は、ここでどんどん話したらいい。ここで解決するものと、市連協などで扱ってもらって市にあげることで、神楽とまとめてやることなど、分けながら、小さなことでも皆で困っていること、もっと盛り上げてほしいことなどを出せば。先ほど、市と市社協から地域まるごと支援員についての説明があったが、彼らが今年から始めたことを以前緑が丘まち協で話し合った。悩み事を持っていたり、中々言えない人達をどこかに繋げるようなところを作ってはどうかということを複数年かかって話したが、やっと市が動き出してくれたということで、ここではやはり皆で色々揉んで意見を出すのが一番良い。

高齢化については、自分のところも同じで、昔は本当に何も無い状態で、そこから少しずつ良くしていった今の現状があり、ここで育ってきたからとても愛着がある。高齢化率も大変高く、高齢の方達がどうやってこれから先元気で頑張ってもらえるのかと考えている。今回、市の敬老事業のやり方が変わり、別の地区では対象者が多いので何年前にもうやめているが、高齢者にとって楽しい事業が一つ減ってしまうので、自分が頑張っているうちは続けたいと思っている。

(委員) 市民委員会の立場で言うと、他と違うのがまだ昔の旭川が残っている地区で、宅地開発される前の農家の方がまだ残っている。今心配なのは、そういう農家の方々が段々高齢化して跡継ぎがいなくなり、空洞化していつか。そちらが他の市民委員会とは少し違う様子がする。そこをどういう風に構築していくのが課題だと感じている。皆高齢化して跡継ぎがいなくなり段々住宅がなくなると、その町内会地区の存続がどうなってくるのかとすごく不安がある。

(委員) 町内会がなくなったり、残っている人が皆やめたという時に、そういうインフラを含めてどうするのかということは今から考えていかないと。市も考えなければいけないし、我々も考えなければいけない。

(委員) 役員の担い手という観点からで、市民委員会や町内会の役員と話す機会があったが、2年以上経つコロナのせいで、ものすごく精神的に負担になっている。一歩踏み出せない。聞いてみると、市民委員会の活動や町内活動を以前のように始めることに怖さを感じている役員がすごく多い。そこをどう解いていくかも大きな課題だと思っている。コロナが収まってもまだまだ時間がかかる感じがするので、そこをどうしたらよいか皆さんと一緒に考えたい課題だと感じている。

(会長) 今までのところ、町内会役員不足という問題、これはもう全市的な問題で、加入者の問題も市民連協などでも何回も取り上げているが、中々妙案がない。それから地域の中での温度差というか、こういう大きな問題もあるが、こういう問題の他にもまだ色々あると思うが、日常的に何か考えていることで何かあれば。

(委員) 大学が役割を果たしているのか。

(会長) 十分活用させてもらっている。特にこの緑が丘地域は医大が近いという部分で、他の地域からみたら大変羨ましがられているが、大いに活用していくという部分で言えばまだまだ連携はとっていかなければならないと思う。

(委員) 包括支援センターができた平成18年は地域の65歳以上は約9千人でスタートしているが、令和4年は1万4千人近くが65歳以上。当時、旭神地区や西御料地区は高齢化率が20%前後で、旭川で一番高齢化率が低い地区という認識でスタートしたが、恐らく既に5~6%は上がってきている状況で、先ほど話があったように一斉にというところに繋がってくると思っている。

相談を受ける中で、この地域の特性を踏まえた時、市住・道住含め、アパートや団地も比較的多い地域だと思っている。団地系は公的サービスが意外と制限される地域。除雪一つとっても、アパートは対象外などあったり、かつ、アパートが多い地域は意外に買い物に困っている人が多かったりする。私達も公的サービスが使えない場合、ボランティアなど色々調整するが、買い物ボランティアだと、どうしても運転などが付きまとい、何かあった時のリスクが大きいので、非常に調整しにくいものになってくる。今後は買い物など地域で困ってくる方が非常に増えてくるのではという予測をしている状況。

この地域はすごく学校が多いので、医大をはじめ専門学校や高校など、これからそういったところに力を借りたり、一緒に動いていくようなことを考えていけると、先ほど話があった福祉というところにも力が入ってくるのではないかと考えていた。今も緑が丘の市住は、福祉施設から運転手とワゴン車を派遣してもらい、近くにスーパーがない人は福祉施設のご協力をいただき、月に何回か買い物に行くということも包括も入ってシステムを作った。こういう輪が広がっていくのが良いと思う。

(委員) 自分は今の町内に長く住んでいて、確かに高齢の方もいるが、案外町内会はいい状態というか、役員も皆年をとっても頑張っている。自分が緑が丘に来た時はまだ若かったので、先輩方がしっかり町内を守ってくれていた。自分には分からない問題もあるかもしれないが、現在も案外支え合って生活しているように思う。それと、施設に入所される方々、やはり持ち家や畑・土地などがあって、

入所後に草がすごく生えて見苦しいというか、そういう姿が何か所か見受けられるので、そういう場合は町内会長などに相談して町内を良くしていきたいと思う。一昨日、道路の雑草を一緒にとってほしいと近所の方に初めて声をかけられた。些細なことだが、町内を良くしようとしている気持ちから声がかかったのでは。

(委員) 消防団に入って15年経つが、消防団も入る人がいなくて、皆高齢というか50代が多いので、そういうことを考えると、やはり若い人がいないというのはある。

(委員) この地区は学校が多いので、若い世代が他の地区に比べて多いと思っていたが、自分が普段住んでいて、自分はこういう機関に所属させてもらい、年の離れた方とも接することができるので、色々新しい学びの場を得ることができるが、普段大学という機関に所属している時間が長いので、自分と同じような世代としか接する機会が少ないと思っていて、なるべくなら地域の色々な方と交流する場はもう少し増えたらいいのではないかというのは感じている。

(委員) 同じく、普段大学で過ごしていると他の世代の方と関わる機会はなくて、自分から地域で行われている活動に参加したり、協議会に参加しないと自分と違う世代の人と関わる機会はあまりないと思っている。大学1年生の時に他地区の子ども食堂に参加したが、その時に世代間交流とかができたら違う世代の方と関わって色々な話が聞けたりして楽しいと思った。

(委員) スポーツクラブの活動に参加してきてくれるお年寄りはとても元気。何が問題かというところ、そういうところに出てこないお年寄りをどうしていくかということ。友達ができたら結構元気で来るが、一人になると段々来る機会が少なくなるので、そういう機会というか、そういう場をどうやって作っていくかというのが課題。

(会長) 町内会でも同じで、家にいる人をどうやって引っ張り出すかという。何か事業をしても出てくる人は大体いつも同じだったり、そういうことと同じことだと思う。

(会長) 沢山課題が出たので、一旦事務局に整理を任せる。整理した内容を基に、今後緑が丘まち協としてどういうものに取り組んでいけばよいか、緑が丘まち協がどうあればいいのかという辺りも見つけていかなければならないと思っている。本日はここまでにして、今後、何かの機会でもまた色々と言言していただければ有り難い。先ほど副会長も言っていたように、色々なことを出していただき、解決する方向で課題を見つけていくということで進めていければよいと思うので、よろしく願いしたい。